

## 審査の結果の要旨

氏名 小野寺 夏生

論文の被引用数は、論文の質を表すものとして研究評価にも用いられているが、実際には質に直接関係のない外在的要因の影響を受ける。どのような外在的要因がどの程度論文の被引用数に影響するかについては、未だ十分な知見が得られているとは言えない。

本論文では、外在的要因に関して、(1) 引用に影響する要因をどのような測度を用いてどのような条件のもとで測定するか、(2) 外在的要因が論文の被引用数にどう影響するか、(3) 外在的要因が論文の引用持続性にどう関係するか、という三つの研究課題を設定し、それらに一定の回答を与える。

第1章では研究背景、研究目標、方法論的な見通し、実際の分析で利用するデータとその性質を説明する。第2章では関連研究を調査し、これまでの知見を整理し、設定された研究課題がまだ十分に解かれていないことを明らかにしている。

第3章から第5章が本論文の中核を構成する。これらの章での実証的な分析には、Web of Science から6つの主題カテゴリーを選択し、各主題カテゴリーから英語の学術誌を4点選んで、そこから抽出した各分野230から240件の論文を対象としている。

第3章では、引用に影響する要因の測定に伴う困難を整理したのちに、正確な測定が最も難しい著者の同一性特定に関して、共著者やタイトル語の類似性、雑誌の引用関係、出身国といった要因を用い、高い精度で著者同定が行えることを具体的に示した。

第4章では、雑誌のダミー変数を含む15の説明変数に関して、負の二項重回帰分析を適用し、被引用数に影響を与える重要な外在的要因を明らかにしている。得られた結果のうちPrice指数（参考文献中最近5年のものの比率）が6分野すべてで重要な要因となることが示されたのは、とりわけ重要な知見である。

第5章では、引用持続性に影響を与える要因を分析し、いくつかの外在的要因が影響していることを示している。Price指数が引用持続性と負の相関を持つことを明らかにしていることは極めて重要な知見である。さらに、被引用数と引用持続性にはすべての分野で正の相関があるものの、その関係は非線形であることも明らかにしている。

第6章では、特に第3章から第5章の成果が引用分析研究において有するオリジナリティを整理するとともに、今後の研究課題を整理している。

本研究は、学術情報の流通という、図書館情報学の中核的な課題の一つに明確な問題意識と具体的な課題設定をもって取組み、被引用数に影響を与える外在的要因を、これまで扱われてこなかったものも含め明らかにしたもので、その学問的知見への貢献は極めて大きい。さらに、研究評価の指標としてしばしば無批判に用いられがちな被引用数が抱える問題を具体的に明確にしたことの現実的な意義も大きい。よって、本研究は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。